

節分祭 二月三日 午後四時斎行

二十四に分けて、それを季節と対応させた二節分とは、本来「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日を指しますが、今日は太陽の黄経を十四節気の起点、すなわち年の初めの立春が重視され、今日では立春の前日を指す言葉として定着しております。

節分の行事には、「追儼」「豆まき」や「やいかがし」などがあります。

「追儼」は、鬼を桃の弓や矢、棒などで追って悪疫邪氣を退けようとするもので、「おにやらい」などとも呼ばれ、室町時代に始まったといわれています。本来朝廷では大晦日に行われ、鬼の面をつけた者（方相氏）が炒った大豆を打って邪氣を祓っておりましたが、民間に広がり追儼も節分の行事となりました。

「やいかがし」は、柊の葉と鰯の頭を戸口にはさみ、柊のトゲと鰯の臭いで魔除けとします。

